

最優秀賞(学生部門) 中野優衣

## 臨床工学技士を目指した理由

私は先天性心疾患を患っており小学校4年生の夏に手術を受けました。手術室では医療従事者の方からの声掛けで安心でき、また勇気をもらえたことを今でも鮮明に覚えています。この経験から、病気で苦しんでいる人を救うことのできる医療職に憧れを持ち、漠然と将来は医療従事者になりたいと思うようになりました。

高校生で具体的な職業について考えるようになり、様々な医療職を調べていく中で「臨床工学技士」という言葉を目にしました。しかし、聞き馴染みのない言葉だったため具体的な内容を調べると、医療機器を扱うスペシャリストであり、人工心肺装置などの生命維持管理装置も扱う職業だということを知りました。私の手術に人工心肺装置が使用されたことは聞いていたため、この職業にとっても興味を持ちました。そして、自分の心臓手術の際に命をつないだ医療機器を操作して、今度は自分が誰かの命を救いたいと思いました。これが臨床工学技士を志したきっかけです。

大学での講義や実習を通して各種医療機器の特徴や操作方法、緊急時の対応を実際の機器を目の前にして実践的に学ぶことで、理解が深まりました。また、透析時の患者さんとの会話や手術や治療における多職種との連携などといったコミュニケーションシヨンスキルの重要性も学ぶことができました。最初は単純に医療機器を操作する職種だと思っていたので、患者さんと距離が近いことや多職種連携の大切さを知り、より魅力的な職業だと感じました。

加えて臨床実習を通して人の命をあずかる責任とやりがいを肌で感じる事ができました。また、医療機器の操作ひとつで患者さんの状態を改善できることに感銘を受けました。まずは国家試験合格を目標とし、患者側の立場であった経験から患者さんの不安に寄り添い、少しでも安心してもらえるような臨床工学技士になりたいです。そして今度は自分が患者さんに勇気を与えたいです。

